

分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7名

会 員：上條 庸子（女子栄養大学） 小林 美佐（昭和女子大学）
鈴木 学（日本女子大学） 高澤 玲子（獨協大学）
田中 環（文化女子大学） 藤倉 恵一（文教大学） 以上正会員
伊藤 民雄（実践女子学園） 以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿含む）

延べ参加者数：68名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究という基本テーマとする。

今期は、「分類する」ということはどういうことか、人間の思考や思想に根ざした「分類」の基本についてまず検討し、翻って、現代の図書館分類法が抱える問題や分類実務における困難について再考することをメインテーマとする。

並行して、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の日本十進分類法（NDC）新訂 10 版の試案が公表されれば、その検討や批評も予定する。

2) 活動の概要

分類研究分科会は 2 年間で(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括 の 3 つの期間に分けて活動する。

ア. 第 1 期 「分類」の基本の再確認（2008 年度活動）

2008 年度は、思想の分類や動植物の分類、規格としての分類など、図書館における「分類」にとらわれない分類の根幹にかかわることを再確認するための文献精読を行った。

イ. 第 2 期 図書館実務における「分類」の問題点：NDC 試案の集中的検討

第 2 期の活動として、具体的なツールとしての分類表を採りあげた。

内容としては『図書館雑誌』2008 年 10 月号より公開が開始された「日本十進分類法新訂 10 版試案の概要」について、新訂 9 版の試案やそれに対する批評、批評を受けて実際に刊行された 9 版と 10 版試案の差異を検討することと、可能な範囲でそれを批評する研究を開始した（2009 年 2 月～）。

試案については時系列で以下のように公開されている。また、試案は『図書館雑誌』のページ構成上各 4 ページという制約があるが、日本図書館協会分類委員会ホームページ（<http://www.jla.or.jp/bunrui/>）上では、PDF および HTML で雑誌掲載のものより詳細なものが公開されている。分科会での検討にはこの Web 版を使用した。以下、特に区別する必要がない場合「試案」とはこの Web 版のことを指す。

- ・ その 1 3 類「社会科学」の部 図書館雑誌 102(10) p.734-737, 2008.10

- ・ その 2 2類「歴史・伝記・地理」の部 図書館雑誌 102(12) p.882-885, 2008.12
- ・ その 3 7類「芸術」の部 図書館雑誌 103(2) p.102-105, 2009.2
- ・ その 4 0類「総記」の部 図書館雑誌 103(7) p.474-477, 2009.7

これら試案の検討の結果を NDC 全体に関わる課題と各類改訂試案個々に対する課題とに分け、前者を 2010 年 1 月 21 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見」、後者を 2010 年 3 月 31 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見(各類試案に対して)」としてそれぞれ日本図書館協会分類委員会に提出した。

なお、この研究は試案の公開に応じて次期以降も継続する。

ウ. 夏期研究合宿

第 2 期の活動と連動して、NDC10 版試案の検討を中心に行った。

関連して、分科会 OB である光富健一氏（東京理科大学図書館）による特別講義「DDC に見る注記のあり方」を受けた。これにより、NDC の注記が抱える問題点について会員の認識を再整理した。

また、検討を終えた 3 類改訂試案について、実際に書架に影響を及ぼす（再分類の必要）可能性について、『出版年鑑』2009 および 1999 で 3 類に分類された書誌をもとに検証した。結果、顕著に再分類の必要が生じる箇所はまれであることが確認された。

エ. 第 3 期 今期のまとめとして

今年度の活動計画の主軸に据えた「分類することの基本」を踏まえたうえで、具体的なツールとしての NDC 試案を詳細に検討し、評価することによって、今期の研究目的が具現化しえた。よって、会期末の研究発表はこれを主たるテーマとして「日本十進分類法 (NDC) 10 版試案の検証」と題して行った。

2 年間の研究活動を通じて、まず会員個人々人においては試案の集中的な検討・批評を通じて、NDC が潜在的に抱えていた問題点を抽出するなど、分類法への理解がより深まり、スキルの向上を達成しえた。さらに NDC という会員所属館が実際に使用しているツールを検討したことから、それぞれの所属館への業務のフィードバックも期待できるだろう。さらに、分類委員会に提言をすることで、図書館界に貢献できる研究内容であったと自負することができる。

資料

1) 刊行物

特になし。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2009（第 19 回整理技術・情報管理等研究集会）の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ（現・情報組織化研究グループ）により始められた TP&D フォーラムは、第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2009 年度は東京で開催され、分科会からは藤倉・鈴木・小林・高澤の 4 名が出席した（藤倉と鈴木は実行委員）。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者、実務家たちとの交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお、2010年度は8月20日（金）～21日（土）に京都にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007年度より、分類研究分科会を代表して藤倉がNDCの編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりともNDCの編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

また、分類委員個人のレベルにおいても分科会と交流の機会を設け、有意義なコミュニケーションがとれるような環境を整備している。

ウ. NDC10版試案説明会への参加

2009年11月10日（火）、日本図書館協会会館にて「日本十進分類法（NDC）新訂10版試案説明会（中間報告）」が開催された。分科会ではこれを研究上重要なイベントととらえ、各会員所属館のご理解・協力を得て正会員全員でこれに出席し、質疑応答や懇親会の席上で多くの意見を分類委員に提示した。

エ. NDC10版試案への意見提出

前述のとおり、分類委員会に対して新訂10版試案に対する意見の提出を行った。このうち、NDC全体に関わる部分の意見については3月9日付で分類委員会からの回答を得た。

以上